



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部

仲間川・浦内川でカヌー体験



修学旅行 アクティビティ

奥にうっすら見える橋の向こうが仲間川、手前は東シナ海



修学旅行キマグレの第6号目となる今号では、修学旅行2日目と3日目に行われたカヌー体験の様子をお伝えする。活動は仲間川と浦内川に分かれて行われ、全部で206人が参加した。



5・7組の男子は、修学旅行3日目となる10日の8時50分に小浜港を出発して西表島の仲間川に向かった。西表島は沖縄県では沖縄本島の次に大きい島で、仲間川をはじめ40以上の川がある。

参加した生徒はまずインストラクターの方からカヌーの乗り方や諸注意などを聞いた後、2人1組のペアを作り、かけ声を出しながら仲間川下流から中流の方へ漕ぎ出していった。カヌーは真っ直ぐ進むのが難しく、どのペアも苦労しているようであった。中には転覆してしまうペアもあったが、インストラクターさんに教わりながら進んでいった。

西表島での新発見 日本最南端の信号機



西表島には日本最南端の信号機が存在する(写真)。西表島にある信号機は168円(11月10日)で売られており、最高の値は202円だった。ほかにも、島に信号機を含めて2息するイリオモテヤマネコを守るために道路にはゼブラライン(凹凸のついた道)の速度を落とし、動物にぶつかりにくくする)やイリオモテヤマネコが通るトンネルが100力以上に設置されている。(彼方)

仲間川の周辺にはマンングローブ林が広がっており、様々な種類のマンングローブを見ることができた。生徒たちは、カヌーだけでなく、滋賀県では見ることのできない風景も楽しんでいた。

カヌー体験終了後、参加した生徒に話を聞くと、「最初はなかなか前に行けなかったが、2人で声を合わせて漕げた時は達成感があった」、「カヌーを漕ぐには予想以上に力が必要だと分かった。明日は筋肉痛になっているかもしれない」などと話していた。(彼方)



カヌーを楽しむ生徒たち